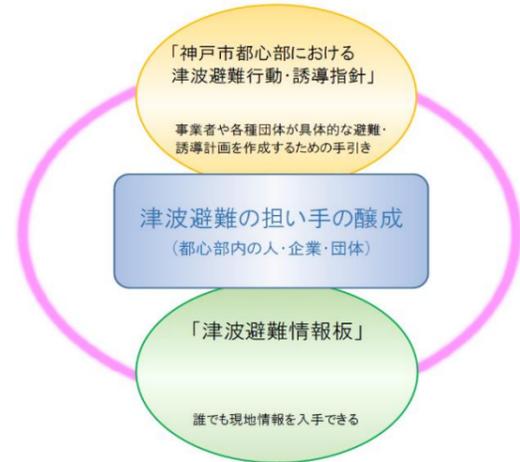


# 神戸市都心部における津波避難行動・誘導指針 (概要版)

令和4年11月  
神戸市危機管理室

## (1) 指針の目的

本指針は、南海トラフ巨大地震による津波浸水想定（H26.2兵庫県）の公表を踏まえ、神戸の都心部における津波避難行動・誘導の基本的考え方を三宮、元町、神戸のエリアごとに整理し、「安全をおもてなしの一つ」としてとらえ、その担い手となっていただく事業者や各種団体の皆様が具体的な避難・誘導計画を作成して頂く上で、踏まえるべき内容を示したものです。



## (2) 指針で想定する地震

今回の津波避難行動・誘導指針で想定している地震は、南海トラフを震源とする地震です。地震規模は、100年～150年周期で繰り返し発生してきた規模の地震（＝レベル1）と、発生頻度が1000年に一度かそれ以下と極めて低いものの甚大な被害をもたらす最大クラスの地震（＝レベル2）の2つが想定されており、津波からの避難計画は、レベル2の津波浸水想定を前提とします。

神戸市都心部における津波浸水想定地域内に滞留する人口（通勤・通学者、買物客などの来街者）は、最も多い時間帯（14時台）で、以下のとおりです。  
三宮エリア：平日約3.4万人、休日約2.2万人  
元町エリア：平日約1.6万人、休日約1.2万人  
神戸エリア：平日約2.3万人、休日約2.4万人

## (3) 津波避難の基本的な考え方

神戸市全体としては、地震が発生してから津波が来襲するまで80分以上の時間がありますので、津波浸水想定地域外の避難所や公園等への水平避難が基本となります。

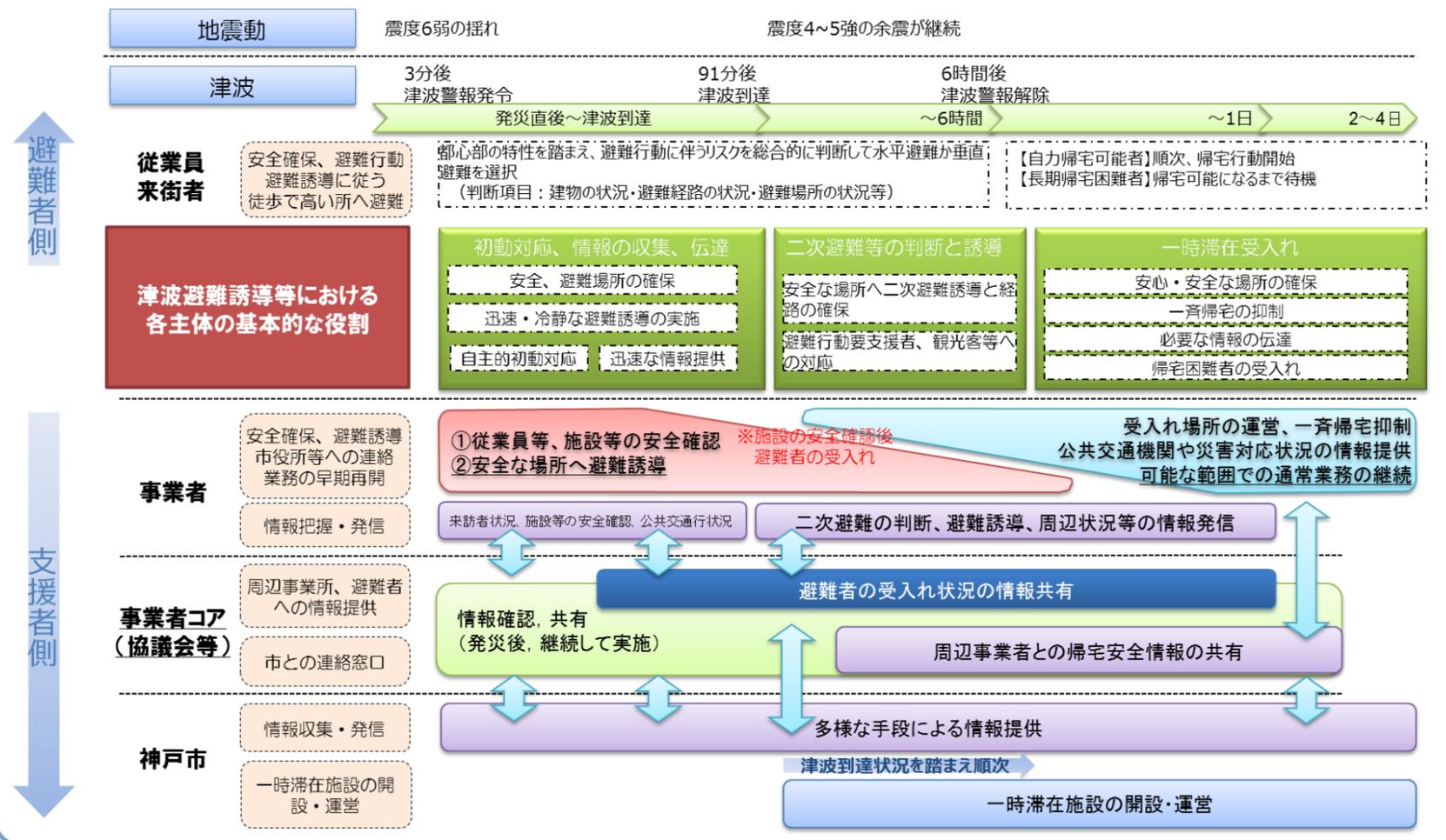
一方、都心部では、下記のような特性があり、十分な階高がある堅牢な建物であれば、垂直避難も有効な選択肢となります。

建物の特性	①耐震化されている鉄筋コンクリートの構造物などの堅牢な建物が多い ②大規模な商業施設などでは、多くの来街者が滞留している ③高層ビルでは、エレベーターが停止により昇降に支障が生じるなど、迅速な避難移動が困難である
避難経路の特性	①屋間人口が多く、避難者が集中し、雑踏事故等の恐れがある ②幹線道路の横断に支障が生じる恐れがある ③観光客など、地理に不案内な方への避難経路の案内が困難である
避難場所の特性	①避難のための十分な面積が確保された屋外空間が少ない ②避難場所周辺の安全性の確保が困難である

水平避難か垂直避難かについては、行政等からの情報を参考に各自各施設管理者の状況に応じ、自己決定して頂くことが必要です。なお、事業者については、業務早期再開のための体制の確保等、事業継続の観点も考慮して頂くことが必要です。

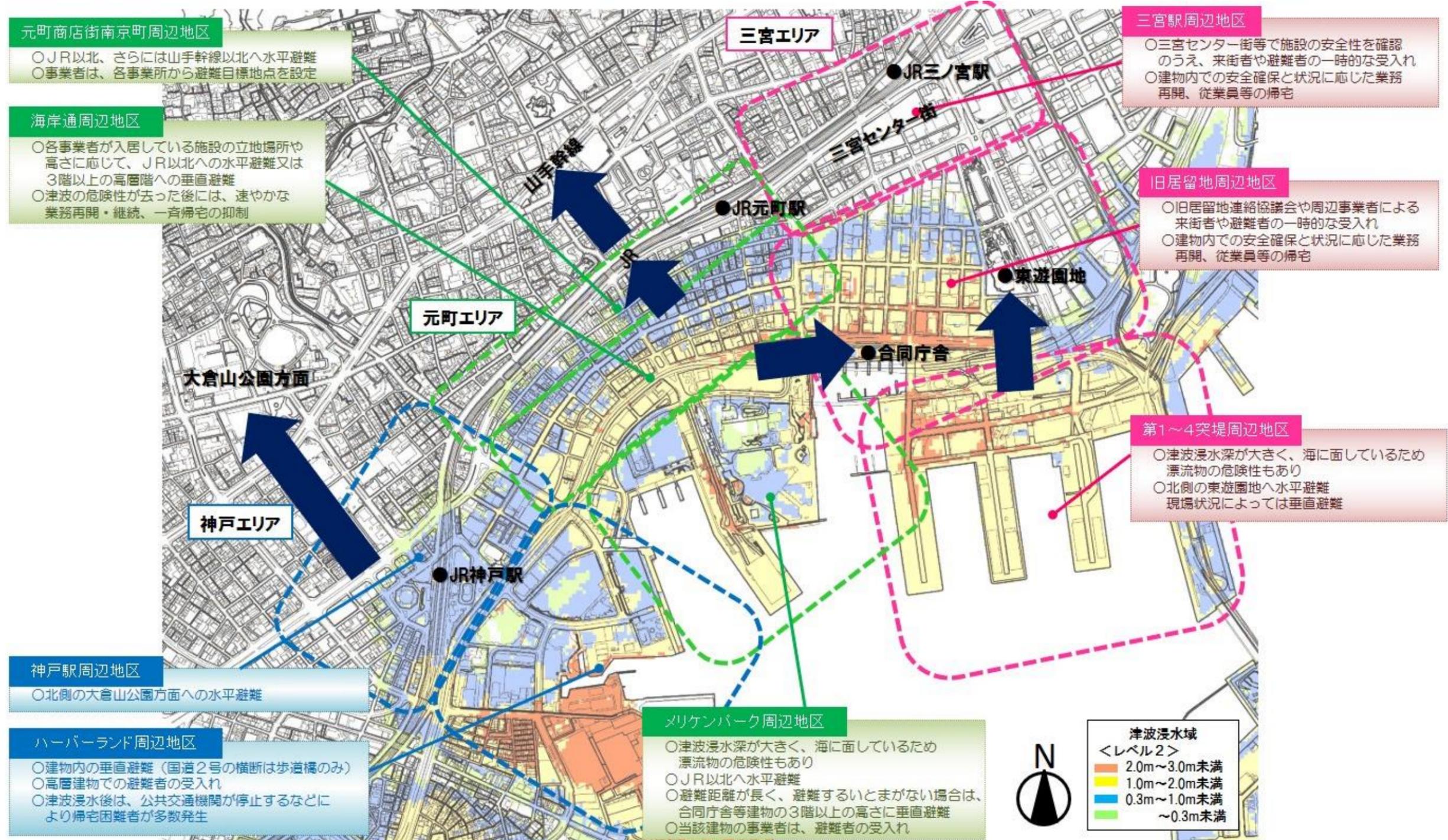
## 津波避難行動・誘導の概要

津波避難における市民・来街者、事業者、神戸市の役割の概要は下記のとおりです。



#### (4) 都心部のエリア別の避難の考え方

三宮、元町、神戸の3地区を比較すると浸水想定域の広がり、避難ビルとなりうる丈夫な建物の分布、道路や街区の状況など、地区の様相が多様となっています。これらの特性を踏まえた、地区ごとの避難行動のあり方は、下記のとおりです。



**【市民、来街者の役割】**

- 災害発生直後は自らで安全確保
- 高齢者や障害者等の要配慮者に対する支援
- 避難はパニックにならずに安全に実施
- デマなどに惑わされず、確実な情報を収集し適切に行動
- 公的機関や施設管理者の避難誘導にしたがって行動
- 避難は徒歩で高いところへ（地盤の高い北への避難か丈夫なビルへの避難）

**【事業者の役割】**

- 従業員、来街者、お客様の安全確保
- 施設、建物の安全確認
- 高齢者や障害者等の要配慮者に対する支援
- 従業員、来街者、お客様の避難誘導、必要に応じて避難場所の確保
- 市役所等関係者への状況連絡
- 地震情報、周辺の状況、行政の対応状況等の必要な情報収集・整理・伝達
- 業務の早期再開

**【神戸市の役割】**

- 地震等の災害情報の収集・整理
- 市域や市外の被害状況の収集・整理
- 公共交通機関の状況、復旧見込み等の情報の収集・整理
- 避難の必要性や避難場所、避難ルート等の情報整理
- 整理情報を多様な手段により情報提供
- 津波緊急待避所、指定避難所、広域避難場所等の開設と避難者等の受入れ